

表2 臨床課題とCQ

CQ1-01	膵腫瘍に対して ERCP は行われるべきか.
CQ1-02	胆道癌症例に対して ERCP を施行するべきか?
CQ1-03	慢性膵炎症例に対して ERCP は施行するべきか?
CQ1-04	胆石症に対して ERCP を施行するべきか
CQ2-01	膵液流出障害があると, ERCP 後膵炎が発症しやすいか?膵液流出障害はどのような時に生ずるか?
CQ2-01-1	膵液流出障害があると, ERCP 後膵炎が発症しやすいか?
CQ2-01-2	膵液流出障害はどのような時に生ずるか?
CQ2-01-2a	検査時間・膵管への造影剤注入量・圧, カニュレーション回数は ERCP 後膵炎発症に関与する.
CQ2-01-2b	膵管擦過や IDUS は ERCP 後膵炎発症に関与するか.
CQ2-01-2c	副乳頭や Santorini 管の機能不全は ERCP 後膵炎発症に関与するか.
CQ3-01	ERCP 後膵炎を起こしやすい要因で病歴聴取により分かるものはあるか?
CQ3-02	ERCP 後, 強い腹痛の出現は ERCP 後膵炎である可能性はあるか?
CQ3-03	ERCP 後, 腹部の診察所見で ERCP 後膵炎は診断できるか?
CQ4-01	ERCP 後膵炎の患者側危険因子にはどのようなものがあるか?
CQ4-02	ERCP 後膵炎の手技側危険因子にはどのようなものがあるか?
CQ5-1	ERCP のインフォームドコンセントにおいて, 特に重症膵炎の発症率および死亡率の説明は必須か?
CQ5-2	診断的 ERCP の場合, MRCP による代替の可否について説明すべきか?
CQ6-01	ERCP 後膵炎の発症早期の診断に最適な時期は術後何時間か?
CQ6-02	診断に最適な膵酵素は何か?臨床で用いる場合はどれが使いやすいか?
CQ6-03	Procalcitonin (PCT)の測定は, ERCP 後膵炎の重症度に有用か?
CQ7-01	ERCP 後膵炎が疑われる患者で胸腹部 X 線撮影を施行することは急性膵炎の診断率の向上につながるか?
CQ7-02	ERCP 後膵炎が疑われる患者で早期に US, CT, MRI を施行することは急性膵炎の診断率の向上につながるか?
CQ8-01	厚生労働省の重症度判定基準は ERCP 後膵炎の重症度の判定に適しているか?
CQ8-02	ERCP 後膵炎の重症度判定を早期に行うことは, 死亡率の改善, および偶発症発症率の低下につながるか?

## C. 研究結果

表1にあるように現在, 日本膵臓学会での公聴会が終了している. その質疑をもとに文章を修正し, 平成26年度難治性膵疾患に関する調査研究班で発表した. 評価委員の評価をうけ今後, 難治性膵疾患に関する調査研究班と日本膵臓学会の連名で雑誌“膵臓”に掲載された.

## D. 考察

ERCP 後膵炎のガイドラインを作成した. しかし, 診療を行なうのは主治医でありこれらの行為は診療ガイドラインの領域外である.

## E. 結論

ERCP 後膵炎のガイドラインを作成し, 紙面での発表を行なった. 英文での発表を考えている.

## F. 参考文献

- 1) 金子栄蔵, 小越和栄, 明石隆吉, 赤松泰次, 池田靖洋, 乾和郎, 大井至, 大橋計彦, 須賀俊博, 中島正継, 早川哲夫, 原田英雄, 藤田直孝, 藤田力也, 峯徹哉, 山川達郎. 内視鏡的逆行性膵胆管造影検査(ERCP)の偶発症防止のための指針. 日本消化器内視鏡学会雑誌. 2000;42: 2294-2301.

- 2) Cotton PB, Lehman G, Vennes J, Geenen JE, Russell RC, Meyers WC, Liguory C, Nickl N. Endoscopic sphincterotomy complications and their management : an attempt at consensus. *Gastrointest Endosc.* 1991;37:383-393.
- 3) 峯 徹哉, 明石隆吉, 伊藤鉄英 他 ERCP 後膵炎の前向き検討 難治性膵疾患に関する調査研究 平成17年度総括・分担研究報告書主任研究者 大槻 眞. 35-39

### 健康危険情報

ERCP 後膵炎のガイドラインを作成し、今後 ERCP 後膵炎の偶発症の件数を減らすことを期待できる。

### G. 研究発表

#### 【1. 論文発表】

1. 峯 徹哉, 明石隆吉, 伊藤鉄英, 川口義明, 菅野敦, 木田光広, 花田敬士, 宮川宏之, 山口武人, 森實敏夫, 下瀬川徹, 竹山宜典, 真弓俊彦, 厚生労働省難治性膵疾患調査研究班, 厚生労働省難治性膵疾患調査研究班・日本膵臓学会 ERCP 後膵炎ガイドライン膵臓. 30巻4号541-584, 2015
2. 峯 徹哉. 【早わかり 消化器内視鏡関連ガイドラインのすべて】胆膵 急性膵炎診療ガイドライン. *消化器内視鏡.* 2015.27巻3号516-518, 2015
3. Kawaguchi Y, Lin JC, Kawashima Y, Maruno A, Ito H, Ogawa M, Mine T. Risk factors for migration, fracture, and dislocation of pancreatic stents. *Gastroenterol Res Pract.* 2015. 1-6, pages, 2015
4. Ito H, Kawaguchi Y, Kawashima Y, Maruno A, Ogawa M, Hirabayashi K, Mine T. A case of pancreatic intraepithelial neoplasia that was difficult to diagnose preoperatively. *Case Rep Oncol.* 2015. 22;8(1)30-6, 2015
5. Hirabayashi K, Imoto A, Yamada M, Hadano A, Kato N, Miyajima Y, Ito H,

- Kawaguchi Y, Nakagohri T, Mine T, Nakamura N. Positive Intraoperative Peritoneal Lavage Cytology is a Negative Prognostic Factor in Pancreatic Ductal Adenocarcinoma: A Retrospective Single-Center Study. *Front Oncol.* 2015. 7; 182-6, 2015
6. Hirabayashi K, Kurokawa S, Maruno A, Yamada M, Kawaguchi Y, Nakagohri T, Mine T, Sugiyama T, Tajiri T, Nakamura N. Sex differences in immunohistochemical expression and capillary density in pancreatic solid pseudopapillary neoplasm. *Ann Diagn Pathol.* 2015. 19(2)45-9, 2015

#### 【2. 学会発表】

1. 峯 徹哉, 明石隆吉, 伊藤鉄英, 川口義明, 菅野敦, 木田光広, 花田敬士, 宮川宏之, 山口武人, 森實敏夫. ERCP 後膵炎の診断基準の確立・検証とその啓発. 難治性膵疾患に関する調査研究班 平成27年度研究打ち合わせ会. 東京. 2015年6月

### H. 知的財産権の出願登録状況(予定を含む)

- |           |      |
|-----------|------|
| 1. 特許取得   | 該当なし |
| 2. 実用新案登録 | 該当なし |
| 3. その他    | 該当なし |

## 急性膵炎治療のチーム医療モデルの確立

研究報告者 北野雅之 近畿大学医学部内科学消化器内科部門 准教授

### 共同研究者

杉山政則(杏林大学医学部外科), 大本俊介(近畿大学医学部内科学消化器内科部門)

片岡慶正(大津市民病院, 京都府立医科大学大学院医学研究科消化器内科学)

辻喜久(倉敷中央病院 消化器内科), 佐田尚宏(自治医科大学消化器・一般外科)

西野博一(東京慈恵会医科大学第三病院消化器内科), 平出敦(近畿大学医学部救急医学)

古屋智規, 真弓俊彦(産業医科大学医学部救急医学講座)

村瀬貴昭, 亀井敬子, 松本逸平, 竹山宜典(近畿大学医学部外科肝胆膵部門)

### 【研究要旨】

急性膵炎患者に対する診療は、多くの診療科、多職種メディカルスタッフが連携してチーム医療が行われる必要がある。しかしながら、各地域・病院における診療体制は統一されていないと考えられる。本調査研究では、各地域における急性膵炎に対するチーム医療についての現状を把握し、各地域における問題点を解決することにより、チーム医療モデルを構築することを目的とする。平成27年度は、秋田赤十字病院および近畿大学医学部附属病院において、チーム医療モデルを構築した。また、その地域医療モデルを北東北地方の研究会および日本膵臓学会で発表することにより啓発活動を行った。平成28年には、他の地域においてもチーム医療モデル構築し、各施設の医療モデルについて議論を行う研究会を開催する予定である。

### A. 研究目的

チーム医療とは、医師中心の医療から脱却して、様々な職種の医療従事者がお互いに対等に連携することで、患者中心の医療を達成しようとするものであり、一人の患者に担当医とともに、関連する診療科の複数の医師や、複数のメディカルスタッフが連携して治療やケアにあたることと定義されている。急性膵炎患者に対する診療では、総合診療科、救命救急科、外科、内科、放射線科、NST、ICT等、多くの診療科、多職種コメディカルスタッフが連携して、チーム医療が行われる必要がある。しかしながら、急性膵炎治療のチーム医療に関する報告は少なく、各地域・病院における診療体制についての現状は把握されていない。初期対応担当科が施設により異なっている現状、初期対応した科がその後の診療方針を決定し、同じ施設内で異なっている現状があると推測される。本調査研究では各地域・施設における急性膵炎に対するチーム医療についての現状を把握することを

目的とし、その問題点を解決することにより、診療科・多職種メディカルスタッフを越えた横断的チーム医療モデルを確立し、診療体制改善による急性膵炎治療成績の向上を目指す。

### B. 研究方法(倫理面への配慮)

本調査研究では、分担研究者所属施設における急性膵炎チーム医療モデルの構築、研究会で発表・議論することによるモデルの改善、理想的チーム医療モデルの全国への啓発を行う。

1. 各研究分担者施設(秋田赤十字病院, 近畿大学医学部附属病院, 産業医科大学医学部附属病院, 大津市民病院, 杏林大学医学部附属病院, 東京慈恵会医科大学第三病院, 倉敷中央病院, 自治医科大学医学部附属病院)において、急性膵炎診療に関係する診療科・メディカルスタッフ間で会合を行い、各施設におけるチーム医療の問題点を検討・解決することにより、診療科を越えた横断的チーム医療モデルを構築する。参加者として、一次救急か

ら三次救急まで携わっている診療科(総合診療医, 消化器内科医, 集中治療医, 外科医, 放射線科医), メディカルスタッフ(ICT, NST, MSW), 救急隊が挙げられる。

2. 各地域にて行われた会合で構築したチーム医療モデルを, 発表・議論する全国レベルの研究会を開催し, 本邦におけるチーム医療モデルのあり方を検討する。
3. 各施設および研究会で議論された構築された急性膵炎チーム医療モデルについて, 学会, 研究会等で発表し, 啓発活動を行う。
4. 急性膵炎のモデル病院を厚生労働省のホームページで公表する。

\* 当研究の対象は各医療機関であり, 倫理面の問題は無い。

### C. 研究結果

平成27年5月に, 北東北日本海地域における「難治性疾患, 急性膵炎におけるチーム医療構築研究会」が開催された。さらに第46回膵臓学会特別企画2「膵疾患におけるチーム医療」でも秋田赤十字病院の診療チームの取り組みが報告

された。

この診療チームは, 総合診療科の医師が中心となり, 栄養サポートチーム(NST), 呼吸サポートチーム(RST), 血液浄化チーム, 感染対策チーム(ICT)が連携協力して, 診療を行っている実態と問題点が報告された。RST支援の導入により人工呼吸器離脱率が上昇し, NSTの介入により続発性膵感染率が低下したことなどが報告され, 各種のチームの支援により予後の改善が望めることが提示された。一方, 問題点として, 院内の医師やメディカルスタッフ間での情報の共有化が重要であることが指摘され, 院内メーリングリストの立ち上げなど電子カルテシステムを利用したリアルタイムの情報の共有化が有効であることが報告された。また, 院内のスタッフ間での本疾患に対する理解と意識の共通化の重要性も指摘され, そのためにNST勉強会やRST勉強会などの院内の勉強会を地域医療支援病院地域医療従事者研修として頻回に行い出席を促すことや, RSTニュースなどのニュースレターを積極的に活用していることが報告された。また, 院内で医師やメディカルス

#### 資料1

急性膵炎介入依頼

患者番号: 0098000044      生年月日: 1975/08/09

氏名: テスト イジ2      性別: 男性

科・病棟: 外科

病名

軽症急性膵炎治療

重症急性膵炎治療

膵炎局所合併症の治療

術後膵液漏

その他

依頼コメント

※全角19文字まで

具体的な依頼内容 ※カルテ展開時全角25文字で改行されます

確定      閉じる

急性膵炎 カンファレンス記録

ファイル(F) 編集(E) 挿入(I)

急性膵炎 カンファレンス記録

検査結果

WBC	10	2015/11/27	TP	220.0	2015/11/27
PLT			Alb	221.0	2015/11/27
Hb	13	2015/11/27	T-cho	300	2015/11/27
CRP	201.000	2015/11/27			

問題点

今後の方針

介入終了

確定      閉じる

省略可      txa\_検討事項

タッフを統括するチームリーダーが必要であることも指摘されたが、どの診療科の医師がリーダーとなるかは、個々の医療機関の事情により異なることも推測された。

近畿大学医学部附属病院では、平成27年より、治療の標準化、主診療交代の円滑化を目的として、急性膵炎チームを構築した。この急性膵炎チームでは、定期的膵炎カンファレンスを実施し、電子カルテシステムを利用したリアルタイムの情報の共有化を行うこととなった(資料1)。急性膵炎患者をこのシステムに登録することで、急性膵炎チーム全員が介入状況を把握でき、リアルタイムの変化を把握することにより、早急に対応できることとなった。

#### D. 考察

これまでは医師の指導のもとに、多職種の人材チームが協力して患者の治療に当たる診療体制が実践されてきたが、秋田赤十字病院および近畿大学医学部附属病院での試みにより、多職種からなる各チームがお互いに有機的に連携して専門医集団と対等な立場で患者を中心とした診療をする診療モデルの構築を行うべきことが重要となることが示唆された。また、チーム医療の導入を通して、急性膵炎に対する医療を標準化することの重要性が指摘された。その方策として、地域性に配慮した施設間での情報交換を行うことと、地域間での全国規模の情報共有化を行い、我が国独自の急性膵炎におけるチーム医療体制の構築を目指すべきことが重要と考えられる。したがって、平成28年度は、産業医科大学医学部附属病院、大津市民病院、杏林大学医学部附属病院、東京慈恵会医科大学第三病院、倉敷中央病院、自治医科大学医学部附属病院、他数施設で、独自のチーム医療モデルを構築し、さらに、全国的な研究会を通じて、情報交換を行う予定である。

#### E. 結論

日本における急性膵炎治療のチーム医療モデルを確立する調査研究として、秋田赤十字病院、近畿大学医学部附属病院より、施設内の急性膵炎チーム医療モデルの構築を開始した。ま

た、研究会・学会発表を通じて北東北地方、全国における啓発を行った。今後、本邦における理想的チーム医療モデルが構築されれば、診療体制改善による急性膵炎の治療成績の向上、さらに医療費削減につながると考えられる。

#### F. 参考文献

竹山 宜典 奥坂 拓志 学会報告 第46回膵臓学会特別企画2「膵疾患におけるチーム医療」  
日本膵臓学会誌 膵臓2015年 vol.30 643-652

#### G. 研究発表

1. 論文発表 該当なし
2. 学会発表  
1) 古屋智規. 第46回膵臓学会大会 特別企画2「膵疾患におけるチーム医療」(重症急性膵炎におけるチーム医療構築). 仙台 平成27年6月19日

#### H. 知的財産権の出願・登録状況(予定を含む.)

1. 特許取得 該当なし
2. 実用新案登録 該当なし
3. その他 該当なし

## 急性膵炎診療における地域連携モデルの構築

研究報告者 北野雅之 近畿大学医学部内科学消化器内科部門 准教授

共同研究者

杉山政則(杏林大学医学部外科), 大本俊介(近畿大学医学部内科学消化器内科部門)

片岡慶正(大津市民病院, 京都府立医科大学大学院医学研究科消化器内科学)

辻喜久(倉敷中央病院消化器内科), 佐田尚宏(自治医科大学消化器・一般外科)

西野博一(東京慈恵会医科大学第三病院消化器内科), 平出敦(近畿大学医学部救急医学)

古屋智規, 真弓俊彦(産業医科大学医学部救急医学講座)

村瀬貴昭, 亀井敬子, 松本逸平, 竹山宜典(近畿大学医学部外科肝胆膵部門)

### 【研究要旨】

本調査では、急性膵炎に対する地域モデル構築し、急性膵炎の治療成績の向上と予後の改善、医療費の削減を目指すことを目的とする。平成27年度は、南大阪における急性膵炎地域医療モデルの構築より開始した。「重症膵炎」、「胆管結石」および「膵局所合併症」への対応の可否で、各医療機関を4つのカテゴリーに分類し、各施設がどのカテゴリーに分類されるかを開示することとなった。今後、構築された急性膵炎地域医療モデルを運用し、その前後での急性膵炎の治療成績、予後、医療費の変化を検討する予定である。また、東京、秋田、北九州においても、同様に、各地域に特化した地域医療モデルを構築していく予定である。

### A. 研究目的

急性膵炎患者における1次から3次救急までの施設間の連携体制、および標準的な治療は地域により異なっていると考えられる。本調査では、各地域・施設における急性膵炎に対する診療体制の現状を把握し、問題点を解決し、地域での受け入れ体制を整えることにより、地域モデル構築し、急性膵炎の治療成績の向上と予後の改善、医療費の削減を目指すことを目的とする。

### B. 研究方法(倫理面への配慮)

1. 南大阪、東京、秋田、北九州、その他の地域、において病院間の医療連携モデルを作成する。
  - a. 急性膵炎診療している病院へアンケート調査を行い、実情を把握する。
  - b. 調査結果に基づき、各病院(医療連携事務、急性膵炎に携わる医師)が参加する会合を開催し、地域における問題点を抽出

する。

- c. 地域の膵炎の病期別の搬送先リストを作成し、地域における診療体制を構築する。
  - d. 地域連携モデルケース作成前後の急性膵炎患者の治療成績、予後、医療費、在院日数、搬送先を比較し、地域医療モデル作成における効果を評価する。
2. 研究会を開催し、各地域で構築されたモデルを紹介し、地域間で議論することにより、さらに高次元のモデルへ改変していく。
  3. 各地域のシステムを厚労省ホームページで掲載し、各地域での急性膵炎地域医療体制構築の啓発活動を行う。

\*本研究は、個々の患者を対象とするのではなく、各医療機関を対象とした実態調査・地域連携モデルの構築のため、倫理面の問題は無いと考える。

### C. 研究結果

平成27年度は、南大阪における急性膵炎地域

## アンケートにご協力をお願いします

Q1 貴院では、急性膵炎(慢性膵炎急性増悪を含む)を治療していますか？

はい  いいえ

Q2 急性膵炎は、主に何科が治療をしていますか？

外科  救命救急  消化器内科  内科  その他( )

Q3 貴院では、急性膵炎の患者は、1年間で何人程度来院されますか？概算で結構です。

( 人)

Q4 そのうち重症急性膵炎の患者は、何人ですか？ ( 人)

Q5 貴院では急性膵炎の重症度判定に厚生労働省の重症度判定基準を使用していますか？

はい  いいえ

Q6 貴院で行っている膵炎の治療にチェックを入れてください。(複数回答可)

NGチューブまたはEDチューブからのエレンタール投与  蛋白分解酵素投与  
 血液浄化療法  予防的抗菌薬投与  内視鏡的ドレナージ  
 内視鏡的ネクロセクトミー  外科的ネクロセクトミー  呼吸循環管理

Q7 貴院では、急性膵炎を他院へ搬送することがありますか？

はい  いいえ

Q8 搬送するときにはどのような時ですか？具体的な記載をお願い致します。

( )

Q9 搬送がスムーズにできず困ったことがありますか？

はい  いいえ

Q10 南大阪以外の施設に急性膵炎患者を搬送したことがありますか？

はい  いいえ

ご協力ありがとうございました。

医療モデルの構築より開始した。南大阪の施設で急性膵炎診療を実施している352施設へ医療連携を通じて急性膵炎の医療連携に関するアンケート調査(資料1)を実施した。また、平成27年8月に、近畿大学医学部において「南大阪地域における急性膵炎診療のための地域連携システム構築会議」を開催し、アンケートの結果報告会、急性膵炎のガイドライン2015<sup>1)</sup>の紹介および急性膵炎診療体制構築のための議論を行った。

〔アンケート結果まとめ〕

南大阪のアンケートに回答していただいた全病院が急性膵炎の治療を実施している。年間の急性膵炎患者数は約400人でそのうち約30名が重症であった。急性膵炎の加療を実施している病院の78%が膵炎の転送を実施しており、転送の主な理由は重症膵炎の治療と膵炎の局所合併症の治療であった。全施設の16.6%が搬送困難症例を経験している。

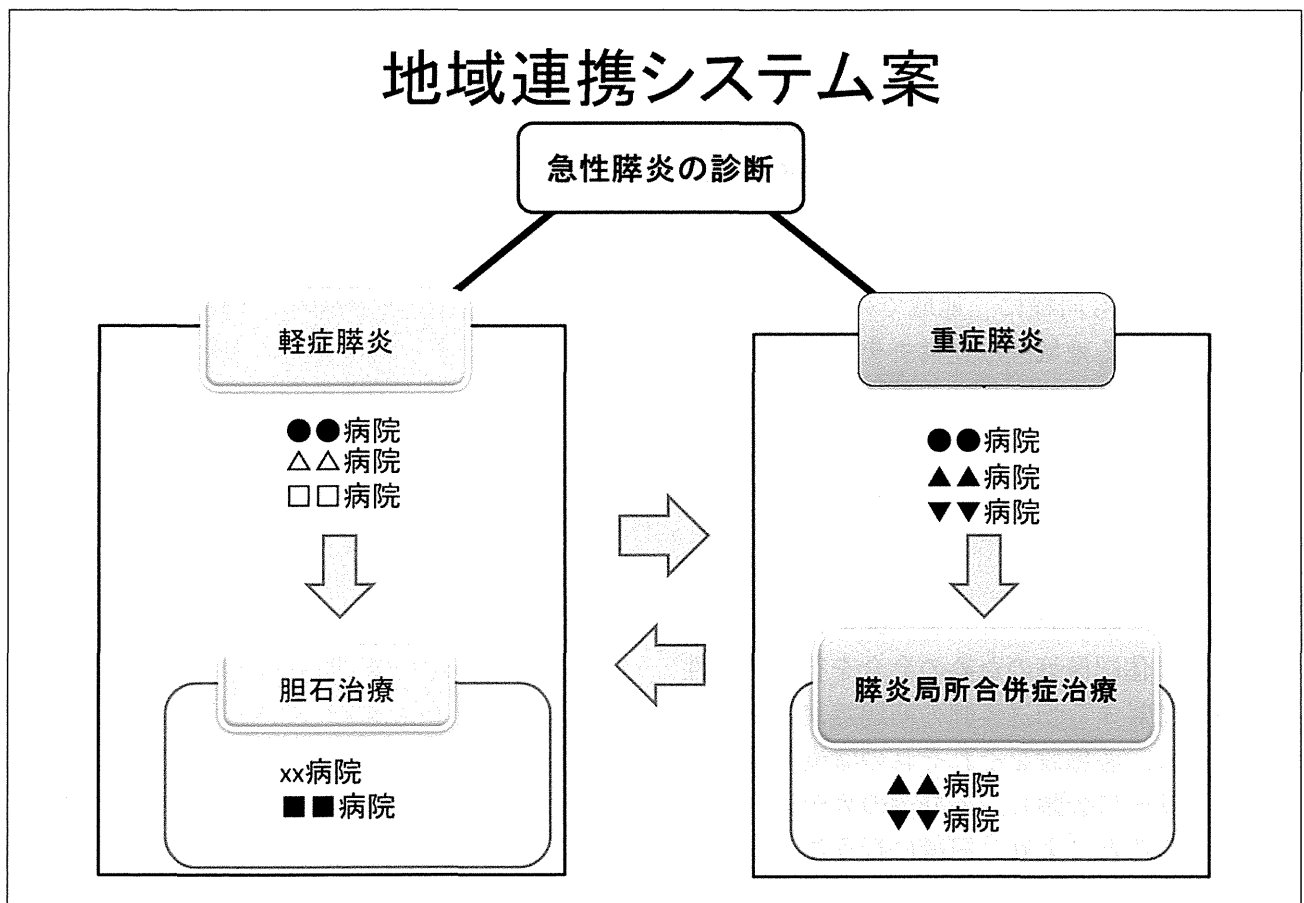
〔議題1 転送の問題点の抽出〕

- \*各施設で様々な問題点の提起があった。特に
  - ①特にどの病院が受け入れしてくれるかが分からない、
  - ②病院のどの部署へ連絡すればいいかが分からない、
  - ③夜間・休日の受け入れが難しい病院がある、
  - ④時間帯・病態によって受け入れできる場合がある、
 というような点が挙げられた。
- \*本会議を開催することにより、以上の問題点の一部は改善できることが確認された。

〔議題2 地域連携システム案の確認と修正〕

急性膵炎を「軽症膵炎」「重症膵炎」のカテゴリーに分類し、各医療機関が対応できるかどうかを確認した。さらに、「軽症膵炎」の中でも「胆管結石」の治療、「重症膵炎」の中でも「膵局所合併症」の治療ができるかどうかで、各医療機関を4つのカテゴリーに分類した(資料2)。「軽症膵炎」でも胆石性か非胆石性を診断できれば紹介先が決まってくる。軽症患者が重症化したり、逆に重症患者が軽症

資料2





化した場合に搬送するような場合もあることも考慮した(資料2)。

議論の結果、全参加施設が、以上のカテゴリ分類と転送の流れを示す「南大阪地域連携システム」に賛同した。また、参加各施設が、対応できる医師の勤務状況、特殊な病態、診療日・時間帯によって受けいれできるかどうかは決定するが、基本的に4つのどのカテゴリに分類されるかが確認された。さらに、参加施設間でこのカテゴリの情報を共有していくことが決定した。

#### D. 考察

今回の南大阪でのアンケート調査により、2つの問題点が明らかになった。第一に、施設毎に転送のための連絡方法が統一されておらず、夜間休日の受け入れ体制も明確ではなかった。また、施設毎に可能な処置も公開されていないことが搬送先の選定を困難にさせていることがある。このような情報を、地域で共有することで、地域連携システムを構築することができた。今回、各病院を4カテゴリに分類し、開示することにより、地域で一体化した急性膵炎治療体制が整い、急性膵炎患者に対する治療成績の向上と予後の改善、医療費の削減が期待される。今後、この地域連携体制構築前後での、急性膵炎の治療成績、予後、および治療費を比較する予定である。

南大阪での試みは、来年度、東京、秋田、北九州においても同様に、地域での会合を行い、各地域における地域医療連携モデルを構築する予定である。さらに、地域連携に関する研究会を開催・情報交換することにより、それぞれのモデルを改善していくことが計画されている。

#### E. 結論

今回、南大阪において、急性膵炎に対する地域医療連携体制構築のための会合を行い、急性膵炎患者に対する転送体制の問題点が抽出された。さらに、各施設をそれぞれの診療体制より4カテゴリに分類し、各施設のカテゴリを開示することにより、円滑に行うことが取り決められた。今後、①各地域(南大阪、東京、秋

田、北九州、その他の地域)における医療連携モデルを構築する。②全国規模での研究会を開催し、最適な医療連携モデルを実現させ、各地域における医療連携システムを厚生労働省のホームページで公表する。③各地域における医療連携モデル構築前後の急性膵炎患者の予後、医療費、在院日数を比較し、医療連携モデル構築の効果进行评估する。

#### F. 参考文献

1. 急性膵炎診療ガイドライン2015改訂出版委員会.急性すい炎診療ガイドライン2015[第4版].東京都 金原出版 2015;1-240

#### G. 研究発表

1. 論文発表 該当なし
2. 学会発表 該当なし

#### H. 知的財産権の出願・登録状況(予定を含む)

1. 特許取得 該当なし
2. 実用新案特許 該当なし
3. その他 該当なし

## DPCデータを用いた膵炎診療の実態調査

研究報告者 真弓俊彦 産業医科大学医学部救急医学 教授

共同研究者

横江正道(名古屋第二赤十字病院総合内科・臨床研修部), 村田篤彦(山口大学地域医療推進学講座)

堀部昌靖(慶應義塾大学医学部内科学(消化器))

村松圭司, 松田晋哉(産業医科大学公衆衛生学教室)

伏見清秀(東京医科歯科大学医療政策情報学)

### 【研究要旨】

DPC (Diagnostic Procedure Combination)を採用している病院が全国的に増加している。急性膵炎、とくに重症急性膵炎では、特殊療法などを用いることにより、DPC病院では、収益が悪化することもすでに指摘されている<sup>1,2)</sup>。

一方でDPCデータを用いた研究で病院規模が大きいほど診療成績がよくなることも報告されている<sup>3,4)</sup>。

### A. 研究目的

今回、DPC病院における急性膵炎の診療実態を調査し、重症度判定基準別かつ時系列で検証し、臨床指標を検証する。

### B. 研究方法(倫理面への配慮)

平成22年4月から平成25年3月における全国のDPC登録病院のデータをretrospectiveに調査する。

### C. 研究結果

- ・全国のDPCデータ、53707例に関して、入院後からの時系列データを収集した。
- ・診断基準項目、重症度判定基準項目を調査し、臨床指標と予後の関係などを検討する。
- ・時系列での調査を行い、全国的にどのタイミングでどのような治療が勧められているのかなどを明らかにする。

### D. 考察

これらのデータを時系列で評価し、急性膵炎の治療・検査などのタイミングを集計する。

### E. 結論

データの抽出作業を終え、解析を進めてい

る。2016年の日本膵臓学会にて発表予定である。

### F. 参考文献

- 1) 横江正道, 梅村修一郎, 林 克己, 折戸悦郎, 真弓俊彦. 3次救命救急センターにおける急性膵炎の診療とDPC. 日本腹部救急医学会雑誌 2013; 33: 39-44.
- 2) Murata A, Matsuda S, Mayumi T, Yokoe M, Kuwabara K, Ichimiya Y, Fujino Y, Kubo T, Fujimori K, Horiguchi H. Effect of hospital volume on clinical outcome in patients with acute pancreatitis, based on a national administrative database. *Pancreas*. 2011; 40: 1018-23.
- 3) Hamada T, Yasunaga H, Nakai Y, Isayama H, Horiguchi H, Fushimi K, Koike K. Impact of hospital volume on outcomes in acute pancreatitis: a study using a nationwide administrative database. *J Gastroenterol*. 2014; 49: 148-55.
- 4) Yokoe M. Does higher hospital volume improve the patient outcome in acute pancreatitis? *J Gastroenterol*. 2014; 49: 371-2.

## G. 研究発表

### 1. 論文発表

- 1) Yokoe M, Takada T, Mayumi T, Yoshida M, Kitamura N, Kimura Y, Kiriyama S, Shirai K, Hattori T, Takeda K, Takeyama Y, Hirota M, Sekimoto M, Shikata S, Arata S, Hirata K. Japanese guidelines for the management of acute pancreatitis: Japanese Guidelines 2015. J Hepatobiliary Pancreat Sci 2015; 22:405-32.
- 2) Isaji S, Takada T, Mayumi T, Yoshida M, Wada K, Yokoe M, Itoi T, Gabata T. Revised Japanese guidelines for the management of acute pancreatitis 2015: revised concepts and updated points. J Hepatobiliary Pancreat Sci 2015; 22:433-45.
- 3) Ukai T, Shikata S, Inoue M, Noguchi Y, Igarashi H, Isaji S, Mayumi T, Yoshida M, Takemura YC. Early prophylactic antibiotics administration for acute necrotizing pancreatitis: a meta-analysis of randomized controlled trials. J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2015; 22:316-321.
- 4) Murata A, Mayumi T, Muramatsu K, Ohtani M, Matsuda S. Effect of hospital volume on outcomes of laparoscopic appendectomy for acute appendicitis: an observational study. J Gastrointest Surg. 2015; 19:897-904.
- 5) 真弓俊彦. 急性腹部疾患の診断と初期治療を示す世界初の「急性腹症診療ガイドランス」. ナーシングビジネス 2015;99:52-54.
- 6) 真弓俊彦. 重症急性膵炎の輸液管理 - その常識は正しいのか? -. 救急・集中治療 2015;27:773-780.
- 7) 真弓俊彦, 穴井玲央, 大坪広樹, 古屋智規. 重症急性膵炎に伴うDICの診断・治療. 救急医学 2015; 39:1573-1576.
- 8) 真弓俊彦, 大坪広樹, 古屋智規. 急性膵炎. 救急医学 2015;39:1683-1688.
- 9) 真弓俊彦, 宇都宮祥弘, 吉野幸司, 穴井玲央, 岡田祥明, 米良好正, 高間辰雄, 弓指恵一, 大坪広樹, 古屋智規. 急性腹症のアルゴリズムと初期治療. 消化器外科 2015;38:1569-1574.
- 10) 真弓俊彦. 腹部症状「腹痛」. 臨床と研究 2015;92:1276-1281.

### 2. 学会発表

- 1) Horibe M, Sakai M, Sawano H, Goto T, Ikeura T, Hamada T, Oda T, Yasuda H, Shinomiya W, Miyazaki D, Hirose K, Kitamura K, Kanai T, Mayumi T, Sanui M. Continuous Regional Arterial Infusion of Protease Inhibitors Showed No Efficacy in Treatment of Severe Acute Pancreatitis.: A Retrospective Multi-Center Study. Digestive Disease Week 2015, Washington, USA, 2015/05/16-19
- 2) Someya K, Muramatsu K, Takahashi N, Takama T, Otsubo H, Kido T, Matsuda S, Mayumi T. Validation of Japanese Severity Score for Acute Pancreatitis Using Japan National Administrative Database 2010-2012. Digestive Disease Week 2015, Washington, USA, 2015/05/16-19
- 3) Mayumi T, Hasegawa J, Otsubo H, and Takama T. Utility of procalcitonin in emergency unit. SHOCK .2015/6/6-9, Denver, USA
- 4) Mayumi T, Takada T, Yokoe M, Yoshida M. Revised Jpn guidelines for the management of acute pancreatitis: Jpn guidelines 2015. WFSICCM Seoul 2015. 2015/08/29, Seoul
- 5) Horibe M, Sasaki M, Sawano H, Goto T, Ikeura T, Hamada T, Oda T, Yasuda H, Iwasaki E, Sugiyama D, Kanai T, Mayumi T, Sanui M. Continuous regional arterial infusion of protease inhibitors for severe acute pancreatitis: a propensity matched analysis with a large retrospective cohort. WFSICCM Seoul 2015. 2015/08/29, Seoul

- 6) Minami K, Horibe M, Sasaki M, Sawano H, Goto T, Ikeura T, Hamada T, Oda T, Yasuda H, Matsuzaki J, Iwasaki E, Kanai T, Mayumi T, Sanui M. Comparison of the mortality rate with the kind of invasive treatment for infected acute necrotic collection (ANC) or walled-off necrosis (WON) : multiple centers retrospective study. WFSICCM Seoul 2015. 2015/08/29, Seoul

H. 知的財産権の出願・登録状況(予定を含む.)

- |           |      |
|-----------|------|
| 1. 特許取得   | 該当なし |
| 2. 実用新案登録 | 該当なし |
| 3. その他    | 該当なし |

# 研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ	資料
下瀬川 徹、 伊藤鉄英、石黒 洋、 大原弘隆、神澤輝実、 阪上順一、佐田尚宏、 竹山宜典、廣田衛久、 宮川宏之、片岡慶正		日本消化器病学会	慢性膵炎診療ガイドライン2015(改訂第2版)	南江堂	東京	2015		なし
石黒 洋	アルコールは慢性膵炎にどんな影響があるの？	伊藤鉄英	「慢性膵炎」の話をしようー生活習慣の改善と断酒の手引きー	大道学館出版部	福岡	2015	22-26	あり
Ito T, Lee L, Hijioka M, Igarashi H.	Pancreatic endocrine and exocrine functions in patients with autoimmune pancreatitis. Eds. Terumi Kamisawa and Jae Bock Chung.	Terumi Kamisawa and Jae Bock Chung.	Autoimmune pancreatitis.	Springer	Heidelberg	2015	31-5	あり
Kazuo Inui, Junji Yoshino, Hironao Miyoshi and Satoshi Yamamoto.	Abdominal ultrasonography.	Terumi Kamisawa, Jae Bock Chung	Autoimmune Pancreatitis.	Springer	Heidelberg New York Dordrecht London	2015	69-72	あり
神澤輝実、 来間佐和子	IgG4関連疾患の治療総論	岡崎和一、川茂幸	最新IgG4関連疾患	診断と治療社	東京	2015	36-38	あり
神澤輝実、 千葉和朗	IgG4関連疾患の鑑別：消化器系	岡崎和一、川茂幸	最新IgG4関連疾患	診断と治療社	東京	2015	158-161	あり
清水京子	セクレチン、ソマトスタチン、膵液、膵内外分泌相関		南山堂医学大事典第20版	南山堂	東京	2015	1273, 1287, 1378, 1485,	なし
Kyoko Shirnizu	Occurrence of malignant neoplasms	Kamisawa T, Chung JB	Autoimmune pancreatitis,	Springer		2015	p175-179	あり
竹山宜典	重症急性膵炎治療におけるstep-up approach	竹原徹郎, 金井隆典, 下瀬川徹	Annual Review 2015消化器	中外医学社	日本	2015	P145-151	あり
急性膵炎診療ガイドライン2015改訂出版委員会		急性膵炎診療ガイドライン2015改訂出版委員会	急性膵炎診療ガイドライン 2015	金原出版	東京	2015		なし
急性腹症診療ガイドライン出版委員会		急性腹症診療ガイドライン出版委員会	急性腹症診療ガイドライン2015	医学書院	東京	2015		なし
真弓俊彦	急性腹症		消化器疾患 最新の治療 2015-2016	南江堂	東京	2015	269~272	あり
能登原憲司	自己免疫性膵炎 病理	岡崎和一、他	最新 IgG4関連疾患	診断と治療社	東京	2015	83-84	あり
能登原憲司	唾液腺病変 病理	岡崎和一、他	最新 IgG4関連疾患	診断と治療社	東京	2015	54-56	あり
能登原憲司	自己免疫性膵炎	鬼島宏・福嶋敬宜	腫瘍病理鑑別診断アトラス 胆道癌・膵癌	文光堂	東京	2015	188-193	あり
能登原憲司	自己免疫性膵炎 (autoimmune pancreatitis; AIP)	公益社団法人 日本臨床細胞学会	細胞診ガイドライン 5. 消化器	金原出版	東京	2015	291-292, 311	あり

雑 誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌	巻号	ページ	出版年	資料
池上博司, 廣峰義久, 能宗伸輔, 川畑由美子	インスリン依存という体質：1型糖尿病と膵全摘の対比	日本体質医学会雑誌	78	7-12	2016	あり
Isaji S, Takada T, Mayumi T, Yoshida M, Wada K, Yokoe M, Itoi T, Gabata T.	Revised Japanese guidelines for the management of acute pancreatitis 2015: revised concepts and updated points.	J Hepatobiliary Pancreat Sci.	22(6)	433-445	2015	あり
Yokoe M, Takada T, Mayumi T, Yoshida M, Isaji S, Wada K, Itoi T, Sata N, Gabata T, Igarashi H, Kataoka K, Hirota M, Kadoya M, Kitamura N, Kimura Y, Kiryama S, Shirai K, Hattori T, Takeda K, Takeyama Y, Hirota M, Sekimoto M, Shikata S, Arata S, Hirata K.	Japanese guidelines for the management of acute pancreatitis: Japanese Guidelines 2015.	J Hepatobiliary Pancreat Sci.	22(6)	405-32	2015	あり
Ukai T, Shikata S, Inoue M, Noguchi Y, Igarashi H, Isaji S, Mayumi T, Yoshida M, Takemura YC.	Early prophylactic antibiotics administration for acute necrotizing pancreatitis: a meta-analysis of randomized controlled trials.	J Hepatobiliary Pancreat Sci.	22(4)	316-21	2015	あり
加藤宏之, 伊佐地秀司.	カラービジュアルで理解! 消化器疾患ナビ 急性膵炎, 慢性膵炎.	消化器外科 Nursing	19(12)	1200-1208	2015	あり
伊佐地秀司.	急性膵炎診療ガイドライン2015.	臨床栄養	127(3)	274-275	2015	あり
田野俊介, 井上宏之, 山田玲子, 作野隆, 原田哲朗, 西川健一郎, 北出卓, 濱田康彦, 葛原正樹, 田中匡介, 堀木紀行, 伊佐地秀司, 竹井謙之.	急性膵炎を契機に診断された膵管癒合不全を合併した膵体部癌の1症例.	肝胆膵治療研究会誌	13(1)	104	2015	あり
飯澤祐介, 井上宏之, 中塚豊真, 伊佐地秀司.	【慢性膵炎・急性膵炎に対する外科的アプローチ】急性膵炎 急性膵炎の外科的アプローチ Step-up approach 法.	手術 2015 ; 69 : .	69(9)	1331-1338	2015	あり
Kondo S, Fujiki K, Ko SB, Yamamoto A, Nakakuki M, Ito Y, Shcheynikov N, Kitagawa M, Naruse S, Ishiguro H.	Functional characteristics of L1156F-CFTR associated with alcoholic chronic pancreatitis in Japanese.	Am J Physiol Gastrointest Liver Physiol	309(4)	G260-G269	2015	あり
村上至孝, 宮田豊寿, 石黒 洋	ドルナーゼ アルファとトブラマイシンの吸入療法が著効した嚢胞性線維症の幼児例	日本小児呼吸器学会雑誌	26(1)	28-34	2015	あり
石黒 洋, 山本明子, 中葦みゆき, 藤木理代, 近藤志保, 洪 繁, 成瀬 達	嚢胞性線維症: 名前は聞いたことがあるけれど	小児科診療	78(7)	913-919	2015	あり
石黒 洋, 洪 繁	自己免疫性膵炎に対するステロイド治療の意義 - 膵組織再生と膵外分泌機能回復 -	肝胆膵	70(2)	295-300	2015	あり

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌	巻号	ページ	出版年	資料
Ito T, <u>Ishiguro H</u> , <u>Ohara H</u> , <u>Kamisawa T</u> , <u>Sakagami J</u> , <u>Sata N</u> , <u>Takeyama Y</u> , <u>Hirota M</u> , <u>Miyakawa H</u> , <u>Igarashi H</u> , Lee L, Fujiyama T, Hijioka M, Ueda K, Tachibana Y, <u>Sogame Y</u> , <u>Yasuda H</u> , <u>Kato R</u> , <u>Kataoka K</u> , Shiratori K, <u>Sugiyama M</u> , <u>Okazaki K</u> , <u>Kawa S</u> , <u>Tando Y</u> , Kinoshita Y, Watanabe M, <u>Shimosegawa T</u> .	Evidence-based Clinical Practice Guidelines for Chronic Pancreatitis 2015.	J Gastroenterol.	51(2)	85-92	2016	あり
Ito T, Jensen RT.	Imaging in Multiple Endocrine Neoplasia type 1. Recent studies show enhanced sensitivities but increase Controversies.	Int J Endo Oncol.	3(1)	53-66	2016	なし
Fujimori N, Osoegawa T, Lee L, Tachibana Y, Aso A, Kubo H, Kawabe K, <u>Igarashi H</u> , Nakamura K, Oda Y, <u>Ito T</u> .	Efficacy of endoscopic ultrasonography and endoscopic ultrasonography-guided fine- needle aspiration for the diagnosis and grading of pancreatic neuroendocrine tumors.	Scand J Gastroenterol.	51(2)	245-52	2016	あり
Kimura H, Ohtsuka T, Fujimoto T, Date K, Matsunaga T, Cases AI, Abe A, Mizuuchi Y, Miyasaka Y, <u>Ito T</u> , Oda Y, Nakamura M, Tanaka M.	Different Hormonal Expression Patterns Between Primary Pancreatic Neuroendocrine Tumors and Metastatic Sites.	Pancreas	2015 Dec 17. [Epub ahead of print]			なし
Nakamura K, Osada M, Iwasa T, Takahashi S, Takizawa N, Akahoshi K, Ochiai T, Nakamura N, Akiho H, Itaba S, Harada N, Iju M, Tanaka M, Kubo H, Somada S, Ihara E, Oda Y, <u>Ito T</u> , Takayanagi R.	Short- and long-term outcomes of endoscopic resection of rectal neuroendocrine tumors: analyses according to the WHO 2010 classification.	Scand J Gastroenterol.	2015 Nov 5. [Epub ahead of print]			あり
Miyasaka Y, Ohtsuka T, Tamura K, Mori Y, Shindo K, Yamada D, Takahata S, Ishigami K, <u>Ito T</u> , Tokunaga S, Oda Y, Mizumoto K, Nakamura M, Tanaka M.	Predictive Factors for the Metachronous Development of High-risk Lesions in the Remnant Pancreas After Partial Pancreatectomy for Intraductal Papillary Mucinous Neoplasm.	Ann Surg.	2015 Aug 25. [Epub ahead of print]			あり
<u>Ito T</u> , Lee L, Hijioka M, Kawabe K, Kato M, Nakamura K, Ueda K, Ohtsuka T, <u>Igarashi H</u> .	The up-to-date review of epidemiological pancreatic neuroendocrine tumors in Japan.	J Hepatobiliary Pancreat Sci.	22(8)	574-7	2015	あり
<u>Ito T</u> , <u>Igarashi H</u> , Nakamura K, Sasano H, Okusaka T, Yakano K, Komoto I, Tanaka M, Imamura M, Jensen RT, Takayanagi R, Shimatsu A.	Epidemiological trends of pancreatic and gastrointestinal neuroendocrine tumors in Japan: a nationwide survey analysis.	J Gastroenterol.	50(1)	58-64	2015	あり



発表者氏名	論文タイトル名	発表誌	巻号	ページ	出版年	資料
Aoki T, Kokudo N, Komoto I, Takaori K, Kimura W, Sano K, Takamoto T, Hashimoto T, Okusaka T, Morizane C, <u>Ito T</u> , Imamura M.	Streptozocin chemotherapy for advanced/metastatic well-differentiated neuroendocrine tumors: an analysis of multi-center survey in Japan.	J Gastroenterol.	50(7)	769-75	2015	あり
Watanabe Y, Ohtsuka T, Matsunaga T, Kimura H, Tamura K, Ideno N, Aso T, Miyasaka Y, Ueda J, Takahata S, <u>Igarashi H</u> , Inoguchi T, <u>Ito T</u> , Tanaka M.	Long-Term Outcomes After Total Pancreatectomy: Special Reference to Survivors' Living Conditions and Quality of Life.	World J Surg.	39(5)	1231-9	2015	あり
<u>Igarashi H</u> , Hijioka M, Lee L, <u>Ito T</u> .	Biotherapy of pancreatic neuroendocrine tumors using somatostatin analogs.	Hepatobiliary Pancreat Sci.	22(8)	618-22	2015	あり
Tamura K, Ohtsuka T, Matsunaga T, Kimura H, Watanabe Y, Ideno N, Aso T, Miyazaki T, Ohuchida K, Takahata S, <u>Ito T</u> , Ushijima Y, Oda Y, Mizumoto K, Tanaka M.	Assessment of clonality of multisegmental main duct intraductal papillary mucinous neoplasms of the pancreas based on GNAS mutation analysis.	Surgery.	157(2)	277-84	2015	あり
<u>Ito T</u> .	Highlights of topic "Pancreatic neuroendocrine tumors update".	J Hepatobiliary Pancreat Sci.	22(8)	573	2015	あり
Kimura H, Ohtsuka T, Matsunaga T, Watanabe Y, Tamura K, Ideno N, Aso T, Miyazaki T, Osoegawa T, Aishima S, Miyasaka Y, Ueda J, Ushijima Y, <u>Igarashi H</u> , <u>Ito T</u> , Takahata S, Oda Y, Mizumoto K, Tanaka M.	Predictors and Diagnostic Strategies for Early-Stage Pancreatic Ductal Adenocarcinoma : A Retrospective Study.	Pancreas.	44(7)	1148-54	2015	あり
Lee L, <u>Igarashi H</u> , Fujimori N, Hijioka M, Kawabe K, Oda Y, Jensen RT, <u>Ito T</u> .	Long-term outcomes and prognostic factors in 78 Japanese patients with advanced pancreatic neuroendocrine tumors: a single-center retrospective study.	Jpn J Clin Oncol.	45(12)	1131-8	2015	あり
Inui K, <u>Igarashi Y</u> , <u>Irisawa A</u> , <u>Ohara H</u> , <u>Tazuma S</u> , Hirooka Y, Fujita N, Miyakawa H, <u>Sata N</u> , <u>Shimosegawa T</u> , <u>Tanaka M</u> , <u>Shiratori K</u> , <u>Sugiyama M</u> , <u>Takeyama Y</u> .	Japanese clinical guidelines for endoscopic treatment of pancreatolithiasis.	Pancreas	44(7)	1053-1064.	2015	あり
山本智支, 乾和郎, 芳野純治, 三好広尚.	特集 早わかり消化器内視鏡関連ガイドラインのすべて VII. 胆膵 慢性膵炎の合併症に対する内視鏡治療ガイドライン.	消化器内視鏡	27(3)	530-5343.	2015	あり
山本智支, 乾和郎, 片野義明, 三好広尚, 小林隆,	講座 膵石の ESWL(extracorporeal shock wave lithotripsy).	臨床消化器内科	30	1569-1571.	2015	あり

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌	巻号	ページ	出版年	資料
三好広尚, 乾和郎, 片野義明, 小林隆, 山本智支, 松浦弘尚, 細川千佳生, 黒川雄太, 安江祐二, 溝口明範, 大屋貴裕.	特集 ERCPマスターへのロードマップ 基 本編 膵石除去・膵管ドレナージ.	胆と膵	36	955-961	2015	あり
山本智支, 乾和郎, 片野義明, 三好広尚, 小林隆, 松浦弘尚, 成田賢生, 鳥井淑敬, 森智子, 黒川雄太, 細川千佳生, 安江祐二, 大屋貴裕.	特集 副乳頭と副膵管の知られざる魅力 副乳頭からの内視鏡治療.	胆と膵	36	1275-1278.	2015	あり
日本膵臓学会	自己免疫性膵炎診療ガイドライン2013	Minds ガイドラインオ ンライン				あり
Okazaki K, Uchida K.	Autoimmune Pancreatitis: The Past, Present, and Future.	Pancreas.	44(7)	1006-16	2015	あり
Notohara K, Nishimori I, Mizuno N, Okazaki K, Ito T, Kawas S, Egawa S, Kihara Y, Kanno A, Masamune A, Shimosegawa T.	Clinicopathological Features of Type 2 Autoimmune Pancreatitis in Japan: Results of a Multicenter Survey	Pancreas.	44(7)	1072-7	2015	あり
Fukuhara T, Tomiyama T, Yasuda K, Ueda Y, Ozaki Y, Son Y, Nomura S, Uchida K, Okazaki K, Kinashi T.	Hypermethylation of MST1 in IgG4-related autoimmune pancreatitis and rheumatoid arthritis.	Biochem Biophys Res Commun.	463(4)	968-74	2015	あり
Nakajima A, Masaki Y, Nakamura T, Kawanami T, Ishigaki Y, Takegami T, Kawano M, Yamada K, Tsukamoto N, Matsui S, Saeki T, Okazaki K, Kamisawa T, Miyashita T, Yakushijin Y, Fujikawa K, Yamamoto M, Hamano H, Origuchi T, Hirata S, Tsuboi H, Sumida T, Morimoto H, Sato T, Iwao H, Miki M, Sakai T, Fujita Y, Tanaka M, Fukushima T, Okazaki T, Umehara H.	Decreased Expression of Innate Immunity- Related Genes in Peripheral Blood Mononuclear Cells from Patients with IgG4- Related Disease.	PLoS One.	10(5)	e0126582	2015	あり
Mitsuyama T, Uchida K, Sumimoto K, Fukui Y, Ikeura T, Fukui T, Nishio A, Shikata N, Uemura Y, Satoi S, Mizuno N, Notohara K, Shimosegawa T, Zamboni G, Frulloni L, Okazaki K.	Comparison of neutrophil infiltration between type 1 and type 2 autoimmune pancreatitis.	Pancreatology	15(3)	271-80	2015	あり

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌	巻号	ページ	出版年	資料
Kawa S, Okazaki K, Notohara K, Watanabe M, Shimosegawa T; Study Group for Pancreatitis Complicated with Inflammatory Bowel Disease organized by The Research Committee for Intractable Pancreatic Disease (Chairman: Tooru Shimosegawa) and The Research Committee for Intractable Inflammatory Bowel Disease (Chairman: Mamoru Watanabe), both of which are supported by the Ministry of Health, Labour, and Welfare of Japan.	Autoimmune pancreatitis complicated with inflammatory bowel disease and comparative study of type 1 and type 2 autoimmune pancreatitis.	J Gastroenterol.	50(7)	805-15	2015	あり
阪上順一, 片岡慶正, 保田宏明, 十亀義生, 加藤隆介, 土井俊文, 伊藤義人	急性膵炎における超音波検査の意義と限界	胆と膵	36(7)	667-672	2015	あり
神澤輝実, 来間佐和子, 田畑拓久, 千葉和朗, 岩崎 将, 小泉理美, 瀬戸口京吾	IgG4関連疾患の消化器病変	リウマチ科	53(5)	453-459	2015	あり
Iwasaki S, Kamisawa T, Koizumi S, Chiba K, Tabata T, Kuruma S, Kuwata G, Fujiwara T, Koizumi K, Arakawa T, Momma K, Hara S, Igarashi Y	Characteristic findings of endoscopic retrograde cholangiopancreatography in autoimmune pancreatitis	Gut and Liver	9(1)	113-117	2015	あり
Kamisawa T, Zen Y, Pillai S, Stone JH	IgG4-related disease	Lancet	385	1460-1471	2015	あり
Nakajima A, Masaki Y, Nakamura T, Kawanami T, Ishigaki Y, Takegami T, Kawano M, Yamada K, Tsukamoto N, Matsui S, Saeki T, Okazaki K, Kamisawa T, Miyashita T, Yakushijin Y, Fujikawa K, Yamamoto M, Hamano H, Origuchi T, Hirata S, Tsuboi H, Sumida T, Morimoto H, Sato T, Iwao H, Miki M, Sakai T, Fujita Y, Tanaka M, Fukushima T, Okazaki T, Umehara H.	Decreased Expression of Innate Immunity-Related Genes in Peripheral Blood Mononuclear Cells from Patients with IgG4-Related Disease	PLoS One.	10 (5)	e0126582	2015	あり

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌	巻号	ページ	出版年	資料
Kanno A, Masamune A, Okazaki K, Kamisawa T, Kawa S, Nishimori I, Tsuji I, Shimosegawa T; Research Committee of Intractable Diseases of the Pancreas	Nationwide epidemiological survey of autoimmune pancreatitis in Japan in 2011	Pancreas	44(4)	535-539	2015	なし
Iwasaki S, Kamisawa T, Koizumi S, Chiba K, Tabata T, Kuruma S, Kishimoto Y, Igarashi Y	Assessment in steroid trial for IgG4-related sclerosing cholangitis	Advances in Medical Sciences	60	211-215	2015	あり
Koizumi S, Kamisawa T, Kuruma S, Tabata T, Chiba K, Iwasaki S, Kuwata G, Fujiwara T, Fujiwara J, Arakawa T, Koizumi K, Momma K	Organ Correlation in IgG4-Related Diseases	J Korean Med Sci	30(6)	743-748	2015	あり
神澤輝実	自己免疫性膵炎と膵臓癌との鑑別診断のポイント	Medical Practice	32(7)	1226	2015	あり
Khosroshahi A, Wallace ZS, Crowe JL, Akamizu T, Azumi A, Carruthers MN, Chari ST, Della-Torre E, Frulloni L, Goto H, Hart PA, Kamisawa T, Kawa S, Kawano M, Kim MH, Kodama Y, Kubota K, Lerch MM, Löhr M, Masaki Y, Matsui S, Mimori T, Nakamura S, Nakazawa T, Ohara H, Okazaki K, Ryu JH, Saeki T, Scheinitz N, Shimatsu A, Shimosegawa T, Takahashi H, Takahira M, Tanaka A, Topazian M, Umehara H, Webster GJ, Witzig TE, Yamamoto M, Zhang W, Chiba T, Stone JH; Second International Symposium on IgG4-Related Disease	International Consensus Guidance Statement on the Management and Treatment of IgG4-Related Disease	Arthritis Rheumatol	67(7)	1688-1699	2015	あり
神澤輝実, 来間佐和子, 田畑拓久, 千葉和朗, 小泉理美	オーバービュー: IgG4関連疾患の発見から現在まで	Modern Physician	35(11)	1285-1289	2015	あり
黒河内 顕, 佐田 尚宏, 小泉 大, 笹沼 英紀, 安田 是和	膵臓の疑いで切除された慢性膵炎(非膵癌)症例と、慢性膵炎と考え経過観察した膵癌症例のプロファイル調査	膵臓	30(5)	649-653	2015	あり
吉田淳, 佐久間康成, 森嶋計, 笠原尚哉, 三木厚, 笹沼英紀, 佐田尚宏, 安田是和	小切開創より膵離断を行った腹腔鏡補助下膵体尾部切除術2例の検討	小切開・鏡視外科学会雑誌	6(1)	45-50	2015	あり
清水京子	IgG4関連疾患	東京女子医科大学雑誌	85	117-124	2015	あり
武田和憲	Videocope 補助下の外科的ネクロセクトミー(開腹/後腹膜アプローチ)	手術	69	1345-1254	2015	あり